

犬の椎間板疾患に対し実施している治療について

Treatment of canine intervertebral disc disease

原田隆久

Takahisa HARADA

はらだペットクリニック

Harada Pet Clinic

はじめに

当院ではグレード 3 以上の椎間板疾患症状を呈する犬の症例に対し、低周波パルス療法・ホモトキシコロジー製剤・漢方製剤・オゾン療法・スーパーライザー等を実施している。

この種の治療方法については、いまだエビデンス不足であり、当学会所属以外の獣医師から認知されているとは言い難いのが現状である。統合医療を実践している当学会所属の我々獣医師は、治療効果を上げ結果を出すことで、認知度をアップさせていく事が急務である。

そこで今回、当院で実施している治療の概要と、当院が考えている治療効果を判断する為の見極めのポイントについて報告する。

治療を始める前に

- ・犬種によって効果の差異はあるか
- ・体型による効果の差異はあるか
- ・その他

治療効果の判断ポイント

- ・尾を振る→足を引き付ける
- ・皮筋反射→固有位置反応→踏み直り反射
- ・その他

症例

グレード 3 以上の椎間板疾患症状を呈する犬

当院で実施している治療方法

- ・低周波パルス療法 10～15 分間通電
- ・スーパーライザー（東京医研）10 分間照射
- ・ホモトキシコロジー製剤（Heel 社）
注射薬、内服薬
- ・「QUANPOW ペットヘルスサプリメント」
（イスクラ産業）
- ・オゾンガス注腸法（Otec.LabTK-20）
- ・リハビリテーション
- ・MPSS パルス療法